



”特殊ガラスと薄膜で光を科学する”

2017年度上期

(2017年4月1日～2017年9月30日)

決算説明会

岡本硝子株式会社

(JASDAQ 7746)

2017年12月1日

連結財務・業績の概況

- ・損益計算書の状況
- ・貸借対照表の状況
- ・キャッシュフローの状況
- ・売上高・利益の推移
- ・営業利益の増減要因
- ・セグメント別売上高



損益計算書の状況(連結)

(単位:百万円・%)

	a		b		前年度 同期比 b-a	増減 %		
	2016年度 上期累計		2016年度通期				2017年度 上期	
	金額	百分比	金額	百分比			金額	百分比
売上高	2,601	100.0	5,344	100.0	2,924	100.0	323	12.4
うち光学事業	1,859	71.5	3,674	68.8	2,027	69.3	168	9.0
販売費及び 一般管理費	650	25.0	1,271	23.8	649	22.2	△1	△0.2
営業利益	24	0.9	147	2.8	88	3.0	64	266.7
経常利益	△47	△1.8	66	1.2	42	1.4	89	—
純利益	△102	△3.9	43	0.8	33	1.1	135	—



貸借対照表の状況(連結)

(単位:百万円)

	a	b	c	c-a 前年度 同期比	c-b 前年度末比
	2016年度上期末	2016年度末	2017年度上期末		
流動資産	2,569	2,739	2,439	△130	△300
固定資産	3,825	3,888	4,050	225	162
資産合計	6,395	6,627	6,489	94	△138
流動負債	1,687	1,820	1,948	261	128
固定負債	3,548	3,397	3,085	△463	△312
負債合計	5,236	5,217	5,033	△203	△184
純資産合計	1,159	1,410	1,455	296	45
負債・純資産合計	6,395	6,627	6,489	94	△138



売上高・利益の推移(連結)

営業利益 前年度同期比64百万円改善



キャッシュフローの状況(連結)

(単位:百万円)

	2016年度上期	2017年度上期	前年度同期比
営業活動によるキャッシュフロー	△176	239	415
投資活動によるキャッシュフロー	△140	△220	△80
財務活動によるキャッシュフロー	△53	△235	△182
現金及び現金同等物 期末残高	401	352	△49

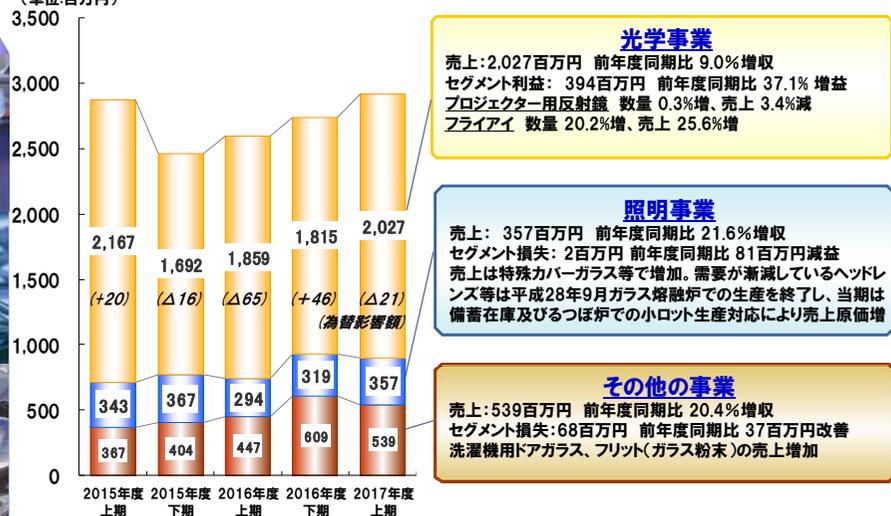
注力事業の状況

「固体光源対応商品の展開」

- ・既存事業
プロジェクター用反射鏡、フライアイレンズ
- ・新規事業
フリット、機能性薄膜

セグメント別売上高(連結)

(単位:百万円)



注力事業の状況

固体光源対応商品の展開

光源の進化

ランプ光源

省エネ
長寿命
高機能付加 等

固体光源
LED
レーザー

固体光源 高輝度化への課題:
「耐熱性」、「耐候性」、「長寿命」等
樹脂からガラスへの回帰が進む

注力中の固体光源搭載商品への展開(例)

高輝度プロジェクター向け

- ・光学系各種ガラスレンズ
- ・蛍光体ホイール用
「Hi-Silver[®]」等

自動車インテリジェント・

ヘッドライト向け

- ・前照灯ガラスレンズ
- ・前照灯向け蛍光体ガラス 等

屋外照明等の

大型・特殊照明向け

- ・照明反射鏡用
「Hi-Silver[®]」等

既存事業

プロジェクター用反射鏡・フライアイレンズ

プロジェクター用反射鏡



販売数量 前年度比0.3%増加

フライアイレンズ



販売数量 前年度比20.2%増加

プロジェクターの需要は概ね横ばいで推移。前年度の熊本地震によるプロジェクター製造サプライチェーンへの影響がなくなり、販売数量増加

固体光源(LED、レーザー)に対応する商品展開を推進中

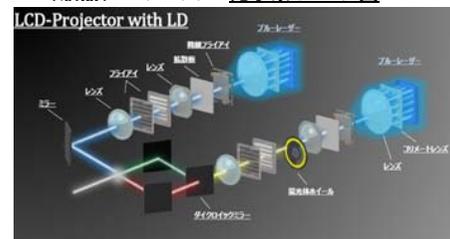


量産・試作案件数の推移

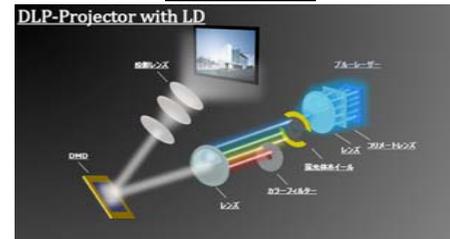


既存事業・新規事業

LCD(液晶)プロジェクター光学系イメージ図



DLPプロジェクター光学系イメージ図



当社のコアコンピタンス
3つの技術で固体光源用商品投入

精密成型技術
高耐熱性レンズ

薄膜技術
高反射率
銀ミラー

硝材開発技術
ガラス封止
蛍光基板

*光学系イメージ図は当社作成のイメージ図で、実際の光学系デザインを示すものではありません。

新規事業

ガラスフリット

太陽電池セル向け

固体光源用部品向け

電子材料向け

量産案件数の推移



量産までに長いリードタイムを要するが、着実に量産案件増加中

「引合い」→「材料認定」→「スケールアップ認定」→「エンドユーザー認定」→「量産」(=1~3年)

優先ビジネス領域にリソースを集中し商品ラインナップ拡充

新規事業

ガラスフリット

<太陽電池セル向け>

クリーンエネルギーの高効率アウトプット

(新型) 高変換効率太陽電池セル向け

- ・アルミニウムペースト用フリット商品
⇒ シェア拡大に向けて順調に推移 市場シェア8%(当社推測)
- ・銀ペースト用フリット商品
⇒ 本年度量産化で順調に推移 2018年度市場シェア2%を目指す

<固体光源用部品向け>

PiG (Phosphor in Glass : ガラス封止蛍光基板)

圧倒的な明るさを追及する“レーザー光源プロジェクター”

- ・PiG製品による高信頼性の確立
⇒ 複数社において評価開始。当社Hi-Silver[®]との複合化商品も提案

安全を追求する“自動車照明”

- ・PiG製品による高信頼性の確立 ⇒ 複数社において評価開始
- 安心・安全を提供する紫外線洗浄
・高反射高耐熱高耐光性インク ⇒ 本年度より量産開始

新規事業

Hi-Silver[®]



機能性薄膜

Hi-Silver[®] 高反射・高耐久性銀ミラー

レーザー光源プロジェクター向け

無機蛍光体基板 (樹脂フリー) 用Hi-Silver[®]を開発

従来
蛍光体を樹脂で封止

今後
蛍光体をガラス等の無機材料で封止
(樹脂フリー)

今後はレーザーの高出力化により、さらに耐熱性が必要

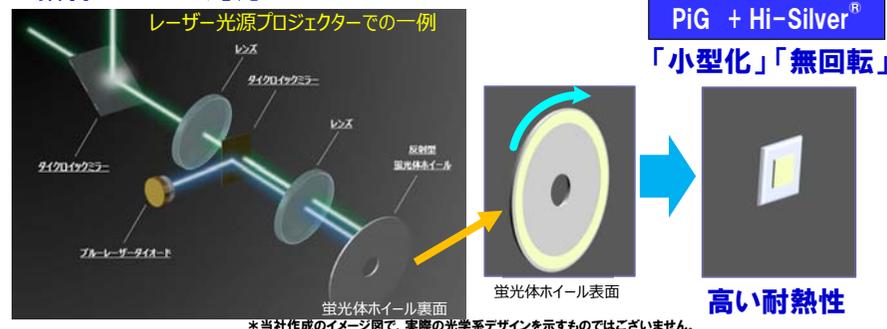
当社製PiG (ガラス封止蛍光基板) との複合化商品も提案
→ プロジェクターメーカー様から多くの試作依頼を受け対応中

新規事業

機能性薄膜+フリット

フリット「PiG」と機能性薄膜「Hi-Silver[®]」の複合化商品を展開

固体光源の光学系部品へ各種ガラス商品を提案し、
顧客ニーズに対応



経営施策進捗状況

・2017年度経営施策、収益改善施策の
進捗状況

・2017年度業績予想

経営施策進捗状況

1) ガラス熔融炉「炉修・稼働」の実行

ガラス熔融炉2基の炉修・稼働を実行し、既存主力(反射鏡・フライアイレンズ)事業の継続安定供給と、展開中の固体光源向け商品生産体制を増強

■ フライアイレンズ 及び 固体光源向けガラス商品用炉 <柏>
(2015年 6月～ 休止中)

2017年11月1日～ 生産再開

…需給逼迫状況により生産再開1ヶ月前倒し

■ 反射鏡(アルミノシリケートガラスモデル) 専用炉 <新潟>

2017年 8月～ 休止

2017年11月6日～ 生産再開

…予定通り

経営施策進捗状況

2) 経営体制強化

株式会社経営共創基盤の経営参画

2017年3月よりハンズオン(常駐協業)を含む経営支援を受ける体制をスタートし、コスト分析に基づく改善対策、販売戦略・事業戦略の策定・実行等において協同で推進中

3) 中期取り組み(継続)

・生産性改善、最適生産体制の構築

生産現場改善のコンサルタント指導の下、生産工程改善施策を実行中

・間接部門業務、製造部門における間接業務の業務効率化

ITコンサルタントの指導を得ながら、間接業務の業務プロセスの改善・再構築と同時に、新しいシステムの導入準備を実行中
(2018年度からの順次導入を計画)

経営施策進捗状況

4) 当社ホームページ全面リニューアル(2017年11月1日)

お客様の「使いやすさ」と「見やすさ」の向上を目指し、利便性を高めることを目標にリニューアルを実施。当社商品を積極的にアピールしていきます。



業績予想(連結)

(単位:百万円)

	2015年度実績	2016年度実績	2017年度予想
売上高	5,341	5,344	5,856
営業利益	▲50	147	168
経常利益	▲102	66	53
当期純利益	▲103	43	36

(単位:百万円)

	2015年度実績	2016年度実績	2017年度予想
有利子負債額*	4,187	4,016	4,124
自己資本比率	19%	21%	23%

*リース債務を含む

本日は当社説明会へ
ご出席いただきありがとうございました。
今後ともご指導とご鞭撻を賜りますよう
お願い申し上げます。

岡本硝子株式会社

(注)スライドに記載された当社の見通し、戦略等は将来の市場
動向、消費動向、経営環境その他予測不可能な要素により、
異なる結果となる可能性を含んでおります。このため弊社は
今回発表した内容を全面的に確約する義務を負うものでは
ありません。